

地域とともに、地域のために



沖縄電力

**調達改革
ロードマップについて**

**2019年3月29日
沖縄電力株式会社**

1. はじめに	・ ・ ・	P3
2. 仕様統一化に取り組む品目について	・ ・ ・	P4
3. ロードマップ	・ ・ ・	P5
4. 仕様統一化の取り組み	・ ・ ・	P6
5. 調達の工夫	・ ・ ・	P7
6. 調達の工夫一覧	・ ・ ・	P8

1. はじめに

- 送配電事業を取り巻く事業環境は、中長期的な人口減少や省エネの進展等により電力需要が伸び悩む一方で、再生可能エネルギーの導入拡大や高度経済成長期に整備された送配電設備の高経年化への対応が増大するなど、大きく変化しつつあります。
- 再生可能エネルギー大量導入・次世代電力ネットワーク小委員会において、「既存ネットワークコストの低減、再エネ接続費用の低減」に向けた取りまとめが行われ、中間整理として公表されております。
- 本中間整理を踏まえ、一般送配電事業者各社で選定した3品目の、仕様統一化および調達工夫によるコスト低減の達成に向けたロードマップを取りまとめましたので公表します。

2.仕様統一化に取り組む品目について

第11回再生可能エネルギー大量導入・次世代電力ネットワーク小委員会(2018.12.26)より一部抜粋

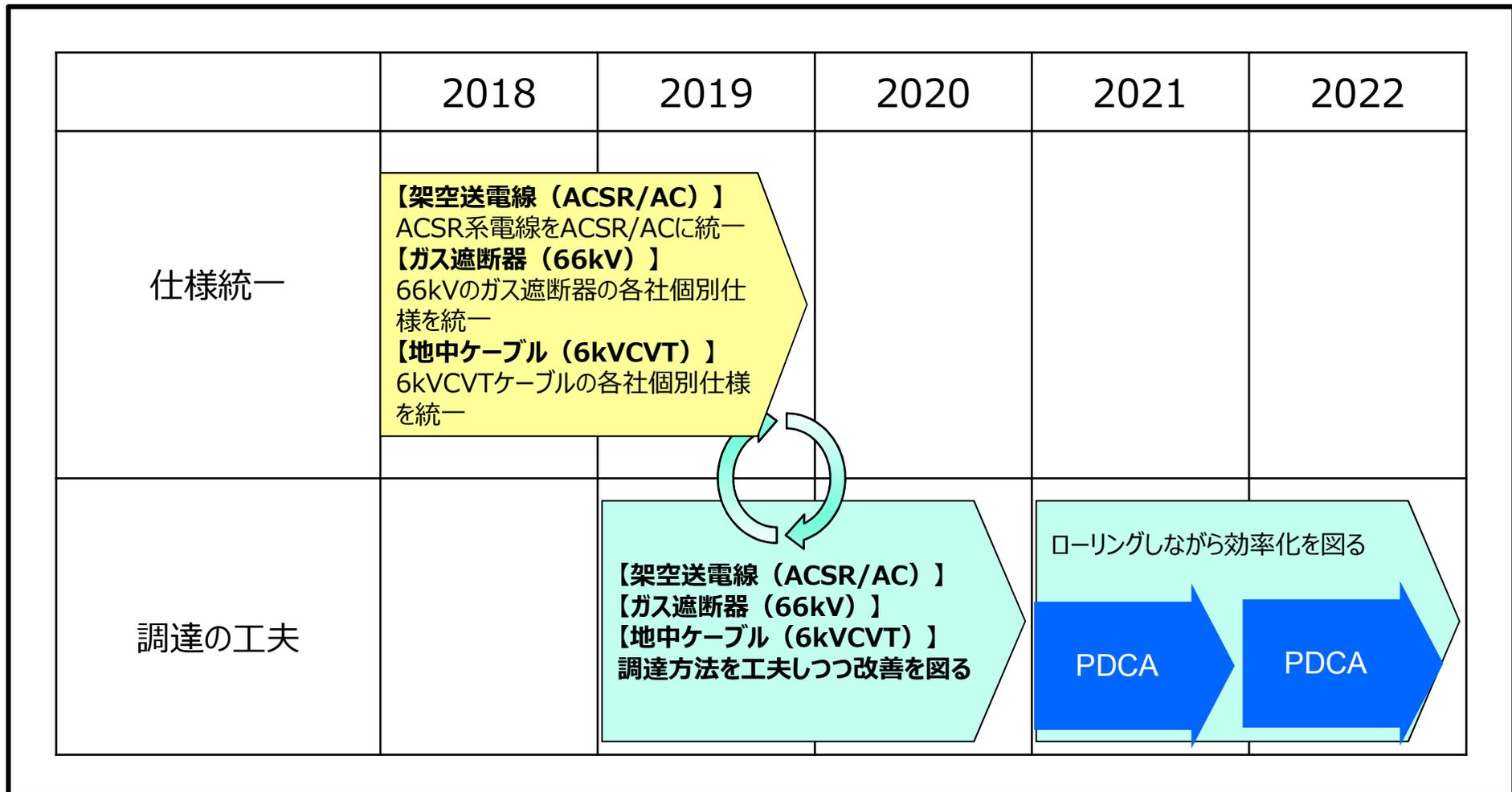
仕様統一化に取り組む品目

・既存ネットワークコストの低減と、再エネの接続費用の低減を目指すため、まずは、調達額が大きく、新規の電源アクセスの際にも使用される以下3品目について、仕様統一化に取り組んでまいります。

対象品目	イメージ図	選定理由	統一化の方向性
架空送電線 (ACSR/AC)		<ul style="list-style-type: none">再エネ導入に係る新設工事でも追加的に使用される。全国的な調達額が大きい。 <p>※主に超高電圧で使用される耐熱性の高いアルミ線（TACSR）も存在するが、電源アクセスの際に必要なケースの多い、本製品について検討。</p>	仕様数2 → 全国大で統一 ※アルミ送電線には通常の仕様(ACSR)と、耐食性の高いもの(ACSR/AC)が存在するが、価格差が小さいため、耐食性の高い仕様で全国で統一。
ガス遮断器 (66kV)		<ul style="list-style-type: none">再エネ導入に係る新設工事でも追加的に使用される。各社の仕様が異なっており、統一化による効果大きい。	10社個別仕様 → 全国大で統一
地中ケーブル (6kVVCVT)		<ul style="list-style-type: none">再エネ導入に係る新設工事でも追加的に使用される。各社の仕様が異なっており、統一化による効果大きい。	10社個別仕様 → 全国大で統一

3. ロードマップ

- 仕様統一検討を実施し、共同調達を含め最適な調達を行うことにより、スケールメリットを拡大し調達コスト低減を図ります。
- 2021年度以降は、今回の取組に対する分析を行い、ローリングすることで更なる改善を図ってまいります。



4. 仕様統一化の取り組み

仕様統一

【架空送電線（ACSR/AC）】

- ACSR系電線には、ACSRと、より耐食性が高いACSR/ACがある。島嶼地域である沖縄は、全地域において塩害の影響を受けやすいことから、仕様統一品であるACSR/ACを従前より使用している。そのような中、今後スケールメリットによる価格低減に向け、2019年度末を目途に全国大でACSR/ACに統一。

【ガス遮断器（66kV）】

- メーカー製造工程の効率化やスケールメリットによる価格低減に向け、2019年度末を目途に66kV遮断器の各社仕様を統一。

【地中ケーブル（6kVCVT）】

- メーカー製造工程の効率化やスケールメリットによる価格低減に向け、2019年度末を目途に6kVCVTケーブルの各社仕様を統一。

具体的な取組内容・施策

【架空送電線（ACSR/AC）】

- ACSR系電線にはACSRとACSR/ACがあるが、それぞれのスペック等を比較するなどして、全国大でACSR/ACに統一することによる不具合がないかを検証。
- 新設のみならず、設備更新の機会を捉えて、既設についてもACSR/ACで対応していく。

【ガス遮断器（66kV）】

- 各社の現状仕様を把握し、標準仕様を検討することでスケールメリットを拡大する。
- 新設のみならず、設備更新の機会を捉えて、既設についても新仕様で対応していく。

【地中ケーブル（6kVCVT）】

- 各社の知見を反映した試験方法、材質等の各社個別仕様の取捨選択を実施し標準仕様を設定。
- 新設のみならず、設備更新の機会を捉えて、既設についても新仕様で対応していく。

調達の工夫

- 設備仕様の標準化による品目別の市場変化を踏まえ、調達コスト削減に資する「新規取引先の拡大」や「まとめ発注(共同調達を含む)の拡大」などに取り組んでまいります。
- 具体的には、今後、以下の「統一化品調達割合」や「競争発注比率」などの管理指標を設定し、その目標達成に向け取り組んでまいります。

分類	項目	説明 (年度比較)	実績値 (2018年度)			目標値 (2022年度)		
			架空 送電線	ガス 遮断器	地中 ケーブル	架空 送電線	ガス 遮断器	地中 ケーブル
仕様統一 状況	統一化品 調達割合	仕様統一品の購入（個別仕様品の排除）によりコスト削減を目指す	※1 -	※2 -	※2 -	100%	100%	100%
競争拡大	競争発注比率	競争環境構築によりコスト削減を目指す	※1 -	※1 -	69%	100%	100%	100%
	取引先拡大数	競争環境の活性化を図る	3社	5社	2社	4社	6社	5社
調達の工夫	施策実施率	各社で実施している調達の工夫を展開し、コスト削減を図る	0%	0%	0%	33%	33%	33%

※1. 購入実績なし

※2. 今後仕様統一予定

6. 調達の工夫一覧

調達の工夫一覧（2022年度目標）

発注施策 (買い方)	内容	品名		
		架空送電線	ガス遮断器	地中ケーブル
新規取引先開拓	競争環境の活性化のため国内外から新規取引先を開拓	○	○	○
まとめ発注	契約時期を合わせて調達量を増やしスケールメリットを得る (共同調達を含む)	○	○	○
早期発注	取引先の生産計画平準化を目的として概略設計の状態に早期に発注	×	×	×
シェア配分競争	複数の案件をまとめて提示し、競争の結果により取引先にシェアを配分	×	×	×
コスト低減提案の募集	技術提案に限定せず、調達方法など調達全般に関するコスト低減提案を募る	×	×	×
複数年契約	通常契約期間を長期化することで優位な条件にて契約する施策	×	×	×
	施策実施率 (施策実施数)	33% (2/6)	33% (2/6)	33% (2/6)